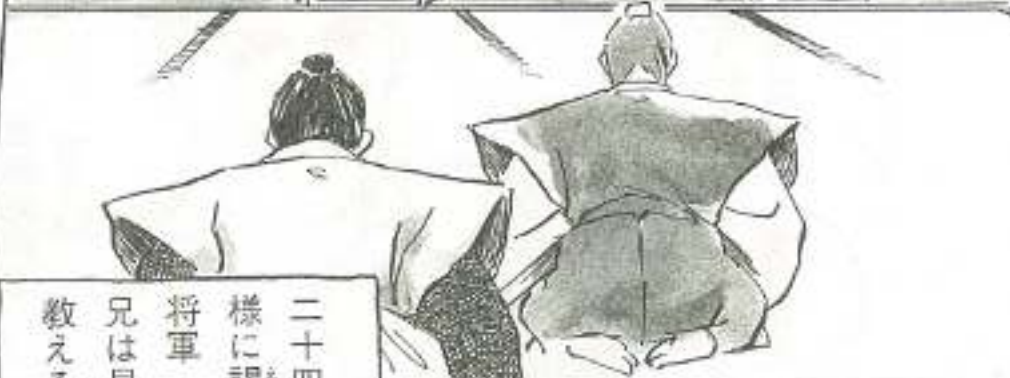


翌八年、一月一日、天竜川を下る兄がよんだ力強い詩は、兄が自分へ送ったはげましの詩だったのかもしれない。そうだ、兄さんっ、兄さんが立ちどまっているのは変だ。



二十四日、老中松平定信様に謁見、二十八日には將軍・家斉様に謁見。兄は昌平校で学ぶ側から、教える側になったのだ。

栗山殿っ

いかが思われる今のこの世の中の乱れを！

早急になんとかせねばっ—それには

大塚大佐殿もあなたが適任と強く申されてな

ええっ
ずいぶん熱心にすめられました！



定信様の改革はまず幕府内部からはじめて地方各地ですすめられた。天明七（一七八七）年に倭約令を出し底をつきかけていた幕府の財政のたてなおしにかかった。

全国に
いざという時の
たくわえを用意
させる必要があるな

仕事か
なんて困った
だけだ



人民寄場
ができて
良かたし

棄捐令で
五年前までの
借金は全部
とりけしだつ

ちつ
ちつ
大損だつ



梅干し
以外喰える
のですねーつ

町では、いろいろな行事の出費をできるだけおさえさせた。また政の批判、風俗を乱す書物、絵画のとりしまりがきびしく行なわれた。



えつ
ひかえめに
しろつて？



林子平海國経
設三國通商條
著して禁錮刑
となる。

寛政四（一七九二）年、ロシア使節ラックスマンが根室に寄港し、開港をせまった。定信様は長崎に來航できる許可を出して彼等をかえした。いつか鎖国のとける日があるのだろうか…。

江戸湾の防
備がととのえば

次は北方
蝦夷の地だな





いやあ腰の
ものをさす
ますますりつは
に見える

かやあ
岡田さん 私のような
田舎者が
帯刀を許されるなん
てなんだか
聴しいなあ

まったく
謙虚だなあ
乗山殿は



兄は侍講じこうとなった。
昌平校で群臣ぐんしん・学生に講義を
し、また將軍様に時には大奥
の方々に講義をすることを仰
付おぼかることもあった。



このころ、京都で大火事
があり、天皇様のおられ
る皇居などが焼けてしま
った。幕府では定信様を
中心に、皇居の建てなお
しを計画。

ん
記録きらくによりますと

この時に、兄の国学で
得た知識・研究は大い
に活用された。
四月には定信様にすす
めて全国で良い行いを
し表彰を受けた者の名
前・言行げんこうを調査した。

寛政二年、五月二十四日「異学の禁令」公布



栗山殿つ

栗山殿つ

またまたまた

私はこうです
信敬殿

学生達に
まだ心配してる
者がいるんです



何を
心配してるん
です？林殿

朱子学を
幕府学ときめて
役人の採用試験も朱子
学でやると決めただしよつ
それで他の学問を
やつてる者が

罰せられるんじゃないか
つかつ追いつかれる
んじゃないか
つてつ
まだあー

朱子学で統一されるのは昌平校内だけ。街や各藩校では何を学ぶのも自由だ。



そんなことは
ありませんよ
そのやつそうですつ
学問するのは個人の
自由ですつ

朱子学は
大御所・家康様
が「教育
の原点」と
してはじめられ
た学問です。

今の昌平校の中はいろいろな学派があらそつてばかりで学生ばかりか教官達まで何を学んでいいのか困つてる状態
これでは学問どころではないでしょう

かみがみがみ

しかし
いきなりすぎた
のでは!!
まあ
そこですけれど



世間が乱れているのは上に立つ者の思想が乱れているからです

今ここで原点にもどって幕府内での考え方をひとつにしておかないと政も成り立たない

今のままでは世はますます乱れます

……



朱子学の考え方が今の日本を建てなおすのに最適だと信じています

民を愛する心は

きちんとした政の基盤があつてこそ世のため人のために力を発揮するつ……ですね

信じているから定信様に進言したのです



定信様も同じお考えでした

備中の西山拙斎殿もつ……

革

改

松平定信様のもと幕府内の教育の改革は昌平校の校舎その他の建てなおし増築、入学資格制度の改めと次々と行なわれた。



そーいふおねえ

それぞ
それぞ

そりやあ
決まらな
てあから
私だっ
手帳い
まわす
ト

寛政三（一七九一）年に儒員
になった尾藤二洲様の元氣
さも兄に負けなかった。学
生達をぐんぐん引ばっ
てい
かれる



尾藤殿

は？



やつぱり
朱子学です

さーて、
講義
講義

だつて他の
学問ときたら
ほら

例えば
〇〇学は

びび
尾藤殿つ

八月には、定期的に一
般の人々が昌平校で講
義がきけるようになっ
た。

ざわ

ざわ
ざわ



一カ月ほど兄は休養を願
い出て、熱海へ湯治に行
く。この頃もう兄の身体
は見た目ほど良くはなか
った。強い精神力だけが
胸の病いをおさえていた。

あの詩は
すばらしいね
山陽君

さすが
頼春水の息子
だね

栗山殿

——そうやな
君は将来
歴史を研究
するつもり

きつと
世に名をあげる
りつばな史学家に
成れるから

兄の言ったとおり
山陽君は後に史学者
となり名高い「日本
外史」を著すのだ。

名画家
谷文晁たにぶんしやうとも
あろう人が
私の顔なんか
描いてつつ

私は絵に
描かれるほど
えらい人じゃ
ないですからつ

お気に入らねば
描きなおし
ましょつ

どういふ
問題でほつ
ありません



四年十月幕府からの命で「賢聖障子」の図考を作るこ
とになった。兄は大はりき
りで多くの資料と藤原様、
住吉様の助けとで冠服のい
ろいろな図があらわされた。

いちおう
考古学から
ますから

よく
ご存知
ですわー
藤原さん

また同時に近畿地方の古
い寺社をめぐり古文書を
写したり、その保存状況
をみたりと忙しく歩いた
—— たくさんの詩をつく
りながら。

コホ



先生っ
かまわんから
横になつて
くださいっ

思つて

弟を
あなたに…会わ
せてやりたかつ
…た

コホ



丸は医者じゃな

平気なわけがない——
内臓も弱っているようだし
相当つらいはずだ 先生



お順ー
お茶まだ!

大丈夫
平気
平気っつ



—— 玄白さん
あなたの顔を
見るたびにね

寛政五（一七九三）年光格天皇様が父君である閑院宮典仁親王に太上天皇の尊号を贈るという意向が幕府に伝えられた。これについて朝廷と幕府の間に意見の対立がおこる。

京の朝廷内ではほとんどの役人が賛成したというが

幕府としてはどうお答えすべきか

幕府は朝廷の意向を尊重し、天皇の尊号を贈ることに賛成した。これは幕府の意向と一致している。



光格天皇様はまことに考行心の厚いお方だ。

考えたのだがな定信 私もこれに習いたい



私の父一橋治済をこの江戸城に呼び大御所の名を差し上げようと思うのだ

